

会 議 録

会議の名称	平成２５年度第５回行田市市民公益活動推進委員会
開催日時	平成２６年１月１６日（木） 開会：午後２時０５分 閉会：午後３時３０分
開催場所	行田市男女共同参画推進センターＶＩＶＡぎょうだ ２階学習室
出席者氏名	金原二郎委員、串田隆義委員、園田佳代子委員、織田和美委員、 鈴木孝佳委員、今村武蔵委員、齋藤貴美子委員、稲葉誠一委員、 長谷川龍委員、野本翔平委員、松井秀二郎委員、田尻要委員、 矢本政子委員、栗本広宣委員、加藤修委員、阿部隆久オブザーバー、 木村奏太オブザーバー
欠席者氏名	関川忠彦委員、中村博行委員、村澤洋委員、浅見知正委員、 矢部正オブザーバー
事務局	吉田主査、秋田主事
会議内容	司会 吉田主査 １ 開会 ２ 委員長挨拶 ３ 議題 （１）（仮称）行田市市民公益活動推進基本計画策定作業について ① 前回策定作業の続き及びまとめ ② グループごとの発表及び意見交換 ③ 発表及び意見交換を受けての策定作業（グループワーク） （２）その他 ４ 閉会
会議資料	平成２５年度第５回市民公益活動推進委員会次第
その他必要事項	傍聴者２名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会 委 員 長 司 会 議 長 事 務 局 議 長 委 員 議 長 事 務 局 委 員 議 長	1 開会 2 委員長挨拶 3 議題 ・委員長に議事の進行をお願いする。 ・議事に入る。 ・議題（１）「（仮称）行田市市民公益活動推進基本計画策定作業について」事務局より説明をお願いする。 ・本日は、前回までの策定作業のまとめ、発表、意見交換を行った後、改めてグループごとの策定作業に入ってください。 ・前回策定作業の発表にあたり、１０分程度で意見をまとめていただきたい。 < ５グループごとのまとめ作業 > ・「①参加のきっかけづくり」グループから発表をお願いする。なお、発表時間は各グループ１０分以内でお願いしたい。 < ①グループ発表 > ・参加のきっかけづくりグループでは、市民公益活動をする意味を市民にアピール、市民に感じてもらい目的を浸透させる必要があると考えた。そのために、みずしろフェスタを春に開催し、入会させるための流れをつくるのはどうかとの意見が出た。受入態勢だけではなく、市民側の意識も大切だと思う。 ・市民の意識醸成は難しいが大切なことである。この委員会だけで盛り上げていても駄目である。何か意見等はあるか。 ・策定する「市民公益活動推進基本計画」には、活動をしていない人や活動をしたいが活動できない人を掘り起こす方法についても盛り込んで行きたい。この点についてはグループで更に内容を精査していただきたい。 ・交流の機会ネットワークづくりグループでもＮＰＯが分からない、知ろうとする意識がないという意見が出ており、きっかけづくりは③グループとも結びついてくると思う。 ・続いて「②活動活性化への仕組みづくり」グループから発表をお願いする。

委 員	<②グループ発表> ・発表の前に1つ提案がある。発表までのまとめの時間が少ないので、策定作業の最後に発表という形にしていきたい。 ・活動活性化への仕組みづくりグループは現状分析と課題抽出まで整理した。「市民活動やる気応援助成金」は、応募が少ない現状があり、提出書類が多い、周知不足、新規事業に限定されるなどの活用しづらい点があるのが課題である。「公共施設の活用方法」では、利用できる施設の一覧などがなく把握しづらいという現状があり、管理場所の統一が必要、各施設の活用方法を明確にする必要がある点が課題である。「活動の継続」では、活動主体が高齢者になっている現状があり、もっと若い人に活動に参加してもらうことが課題である。「団体の育成」では、団体が把握できていない、団体が個々に活動しているなどの現状があり、市民ニーズの把握ができていない、市民との協働意識がないことが課題である。グループ内で意見がまとまっていないところがあるが、今後の策定作業の中で整理して行きたい。
議 長	・発表の方法等会議の進め方については、検討する。 ・何か意見等はあるか。 ・続いて「③交流の機会、ネットワークづくり」グループから発表をお願いします。
委 員	<③グループ発表> ・交流の機会、ネットワークづくりグループも現状分析に力を入れている。現状を、団体同士、団体と市民、団体とその他地域団体と分けて考えた。団体同士では現状つながりがないのは何故か考えた。理由として、自ら壁をつくっている、交流しようとしていないことが挙げられるが、つながりをつくるためには団体から一歩踏み出す必要があると思う。団体と市民ではNPOを知らない、質問する場がない、団体とその他地域団体ではNPOが地域に入ってくると困るので使おうとしないという現状がある。効果的にPRするための場所や方法を考えないとネットワークづくりは難しい。
議 長	・③グループは3つの柱についてよくまとまっているが、課題は多い。何か意見等はあるか。

委員	・続いて「④協働の推進」グループから発表をお願いする。 ＜④グループの発表＞ ・協働の推進グループでは、現状として市民は「協働」の意味やメリットが分かっていないという意見が出た。市政や市民活動への関心が薄い、NPOは他団体が分からない、行政は協働への認識が低いという意見もあった。また課題は、市民に市政や市民活動に興味を持ってもらう、NPOに行政や他団体を知り協働する意識を持ってもらう、行政は規制がある中でも市民や団体の立場に立って考える必要があるという点である。支援策としては、行政や委員会が主体となって意識付けをしていく必要がある。
議長	・④グループでは自主的に集まるなど積極的に取り組んでいる。何か意見等はあるか。 ・続いて「⑤支援するための仕組みづくり」グループから発表をお願いする。
委員	＜⑤グループの発表＞ ・支援する仕組みづくりグループでは、3つのキーワードが挙げられる。①市民公益活動推進委員会の強化、②活動していない人のための窓口、③支援策である。①委員会の強化では、まず認知度が低いので、広く知られるように活動していかなければならない。また、市民公益活動を認識してもらうため分かり易く伝えていく必要がある。各団体も自分たちの活動のよさを認識しておらず、外部から評価すべきである。それぞれのメリットやアイディアを活かす機能がまだまだ不足していると考える。②窓口については、様々な団体の情報やノウハウ等が整理されておらず、整理することによりマッチングやネットワークができると考える。また、情報をデータベース化し、活用していく方法も今後の課題である。③支援という点では、現段階の委員会は機能していないと思われる。委員会のメンバーが補助金等の情報を咀嚼して理解し、正しく提供する必要がある。そのためには、委員1人1人が団体活動のためではなく、委員としてのスキルアップを図る必要がある。また、市民の認知度を上げることも重要である。
議長	・何か意見等はあるか。

委 員	・発表に対しての意見ではないが、全体を通して分かったようで分からない目的を明確にするべきだと思う。「市民公益活動」とは具体的に市民憲章の２番目と４番目の具現化だと思う。噛み砕いていえば、市民を幸福にするため、市民が幸福になるための活動だと考える。人の五大欲求の上には、世のため人のために尽くすというのがある。それが市民公益活動である。委員会の名称を「市民幸福活動」など市民憲章を具現化し、分かりやすくした方がよい。
議 長	・名称に関しては委員指摘のとおり検討する必要がある。
委 員	・公益活動やＮＰＯがどういうものか分からないという市民が多くいると思う。委員がいかに理解し、自分の言葉で伝え、広めていくかが重要だと思う。今年のみずしろフェスタで委員会に関わりの方２人に協力を求めたが、活動に関心を持ったので来年も参加したいと言ってくれた。声かけをして、周りに活動を広げていくことが大切だと思う。
議 長	・活動に触れてみることは大切だと思う。身近な人に声をかけ、広げていくことが第一歩である。また、仕組みづくりも必要である。 ・他になれば策定作業に移っていただく。作業は午後３時２５分までを予定している。 < ５グループでの策定作業 > ・時間となったので、本日のワークは終了させていただく。 ・続いて、議題（２）その他について何かあるか。
事 務 局	・事前に各テーブルに案内を配布させていただいているが、次回の日程についての連絡となる。次回は２月１３日（木）午後１時３０分から市役所３階３０５会議室での開催となる。
議 長	・次回の案内があったので、よろしく願いしたい。次回は、先ほど委員より指摘のあった「市民公益活動推進委員会」の名称を最初に考えたい。続いてグループ毎の策定作業に入るが、ワークは次回で最後とするので、そのつもりで臨んでいただきたい。 ・他に何かあるか。なければ、以上で議長の職を解かせていただく。
司 会	・以上で第５回市民公益活動推進委員会を終了とする。